

令和元年度 第2回長野市立図書館協議会開催概要

1 日 時 令和2年2月17日(月) 午前10時～11時20分

2 場 所 長野図書館3階会議室

3 出席者

(1) 委 員 9名 井上友子委員、衣川修平委員、小林智子委員、高橋桂子委員、
千葉節子委員、西一夫委員、美谷島恵子委員、藤澤喜三子委員
山崎富夫委員

(2) 事務局 9名 教育次長 竹内裕治

家庭・地域学びの課 長澤宏治課長、西村友香主事

長野図書館 石井春恵館長、青木一芳館長補佐、稲葉聡子館長補佐、内海
修係長

南部図書館 丸野俊朗館長、峯村八郎館長補佐

4 次 第

(1) 開会

(2) 任命書交付

(3) 教育次長あいさつ

(4) 委員長あいさつ

(5) 協議事項

ア 令和元年度主な事業実績について

イ 令和2年度主要事業計画(案)について

ウ その他

(6) その他

(7) 閉会

(3) 教育次長あいさつ

教育次長: 皆さん、おはようございます。教育次長の竹内と申します。本日はお忙しい中、令和元年度第2回目の図書館協議会にご出席を賜りまして、誠にありがとうございます。開会に当たり一言ごあいさつを申し上げます。

長野市立図書館は、教育・文化の発展のため、市民に親しまれて、また、市民の皆さんのご要望に応えて、生涯学習に役立つ図書館になりますよう、努力しているところでございます。

そんな中、昨年10月の台風によりまして、広範囲にわたって甚大な被害がありました。被災された多くの皆さまに、改めて心からお見舞いを申し上げます。篠ノ井地区におきましても、浸水被害等があったわけですが、幸いなことに南部図書館においては直接大きな被害はなく、休館することもございませんでした。ここ、長野図書館も大丈夫だ

ったところでありまして、市民の皆様には図書館サービスを提供し続けてきたところがございます。

そういった中で、市が行う催しも、中止を余儀なくされたものもあったわけですが、10月には「南部図書館まつり」、11月には長野図書館において「おはなしカーニバル」を、予定通り開催いたしました。地域に元気になっていただきたいという思いもございまして、開催したところがございますが、おかげさまで多くの皆様にご参加いただいたところがございます。

また、12月には6年ぶりとなる図書館システムの更新をいたしました。更新のための準備期間、利用者の皆様にはご不便をおかけしたわけですが、新しいシステムとなり、図書館ホームページをリニューアルしたり、図書の予約の使い勝手の向上や、「My本棚」という機能を付けることで、借りた本の履歴や読みたい本を登録できるようになりました。このように、利用者の利便性の向上も併せて図ったところがございます。

さらに、移動図書館車3台のうち、平成13年に購入した「いづな2号車」につきまして、老朽化が進んでいることから今年度、更新を行っているところがございます。間もなく納車の運びとなる予定でございます。

本日は、令和元年度の主な事業実績と令和2年度主要事業計画について、ご審議をお願いいたします。委員の皆様方には、長野市立図書館をより市民の皆様親しみやすく、ご利用しやすい図書館とするため、忌憚のないご意見をお願い申し上げましてごあいさつとさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

(4) 委員長あいさつ

委員長：皆さんおはようございます。信州大学の西でございます。私、昨日までイギリスの方に1週間出張しておりまして、大英図書館で4日間文献調査をしまいいりまして、これで4年目になりますが、非常に大きな図書館ですけれども、人が常に溢れている、自由に入れるスペースが非常に大きいものですから、1日そこで暮らしていても誰も文句を言わない、そんな場所で4日間過ごしてきました、私、全然英語が出来ないのですが、単身で行くと、否が応にも生きていくために英語を使うというのが非常に新鮮でして、1週間ぐらい日本語を使わないと、逆に帰ってきて日本語をしゃべると新鮮な感じがしております。今回、大英図書館だけではなくて、地域の図書館を見てまいりましたので、そういったところが、この協議会の中でも少し生かせるような部分があればいいなと思っております。今日は、忌憚のないご意見を委員の皆様から頂戴したいと思っておりますので、限られた時間ではありますがよろしくお願いいたします。

(5) 協議事項

ア 令和元年度主な事業実績について

<令和元年度主な事業実績について 説明>

イ 令和2年度主要事業計画（案）について
＜令和2年度主要事業計画（案）について 説明＞

委員長：ただ今、それぞれの図書館から事業実績、それから次年度の事業計画について説明をいただきました。委員の皆様のご意見、ご質問がありましたらお願いいたします。いかがでしょうか。

委員：障害者ライブラリーが長野図書館の特長ということで、本当にありがたいことだと思います。対面朗読の121人というのは、提供する側の人数はどれぐらいいらっしゃるのでしょうか。

事務局：対面朗読をする側のボランティアさんの数ということでよろしいでしょうか。今、25名ほどボランティアがおりますが、そのうち、今年だと10名ほどおります。さらに4名の方は対面朗読の専門というか、制作には当たっておりませんで、対面朗読だけに従事していただいております。

委員：ボランティアの育成等はしてらっしゃるんですか。

事務局：他の施設等で実際に従事されてこられた方が今やっておりますで、特別、対面朗読のための育成等は長野図書館では行っておりません。

委員：希望の時間にできるのですか。

事務局：今、対面朗読を受けられている方は3名いらっしゃいまして、水曜日の方が1名、木曜日の方が1名、金曜日の方が1名という事ですが、対面朗読に従事する方の都合や子どもの勤務の都合もありまして、水、木、金であれば時間が取れますので、実施しておりますが、ご希望があれば月曜日も実施しております。

委員：まず御礼を申し上げます。移動図書館でございますけれども、私の近くの方も毎回楽しみにしておられまして、今日はどちらへおいでですかと尋ねますと、今日は移動図書館があるので、これから行ってくるんですよということで、移動図書館につきましては皆さん楽しみにしておりますので、できるだけ続けるようにしていただきたいと思います。以上でございます。

委員：関連してですが、私、学校教育関係者として、その立場から感想といいますかお礼を申し上げたいと思います。私、秋の読書週間に合わせまして、校長講話で図書館に行

こうというお話をしたのですが、やはり、本校、信更小学校ですけれども、門の前に移動図書館車が止まりまして、そういう子供たちの目の触れるところで身近なところもあります。また信更公民館には分室がありまして、保育園もすぐ隣にあたりすることから、子供たちが南部図書館へは行かれなくても、またこちらの長野図書館からは少し離れていますけれども、分室の利用は幼い頃から経験できるという事は、ありがたいことだと思いました。また講話の中で、「南部図書館を利用したことがある人」と聞いてみますと、割と利用もありました。図書館まつりに行ったことがある、あるいはお母さんと本を借りに行った、お話し、読み聞かせを聞きに行ったことがある、といった反応がありました。また、県立図書館には「信州・学び創造ラボ」ができましたよ、というようなことも紹介して、学校図書館で、借り方ですとか、本の扱いのマナーの基礎を、また分類の基礎などを教えますので、いろいろな図書館とのつながりを含めまして、子供たちには図書館に親しんで、たくさん利用して欲しいなというふうに思っております。いつもありがとうございます。

委員：雑誌について、南部では雑誌を少し増やしたということで、この雑誌というのは、どういうものがあるのでしょうか。

事務局：昨日、リサイクル市がありまして、平成27年の除籍済雑誌が今、この会議室の外にも並べてあるのですが、ファッションですとか生活、スポーツ、あと法律関係ですとか、週刊誌、様々な分野のものがございます。こういった雑誌を置いてほしいといったご意見も、ご意見箱にいただいておりますので、そういったものも参考にしながら、長野図書館においても来年度は増やそうということで今、検討しております。

委員：皆さん、リサイクルでは持っていかれる方も大勢いらっしゃるのでしょうか。

事務局：昨日も400人を超える方がいらっしゃいまして、お持ちいただいたような状況です。

事務局：雑誌の基本的な構成は長野図書館と同様で、様々な分野のものがございますけれども、今回、増やしたものといたしましては、南部図書館の入り口付近に雑誌コーナーがございまして、雑誌のコーナーを少し華やかにしたいというところがございまして、スポーツ、ファッション誌ですとか、増やした中ではそういったものがございます。

委員長：今の雑誌の構成ですけれども、南部図書館では比較的、児童書の充実というところが1つあるのかなと思って見ているんですが、今回、92誌から118誌へ広げたわけですが、そういった児童書に関わる雑誌ですとか、そういったものは比較的に入れているのでしょうか。例えば、育児に関する雑誌であるとか、そうすると来た方の年齢層であるとか、

入館者の層との関連で雑誌を選定していくと、カラーがよりはっきりするんじゃないかなと思ったのですが、雑誌の構成そのものについてはどういった感じなんでしょうか。

事務局：今お話がございましたように、南部図書館は長野図書館と比べても児童書の構成が多いところでございます。ただ、今回増やした雑誌の中ですと、先ほども若干申し上げましたが、雑誌の書架を華やかにしたいというところで、エンターテイメント系のものですとか、ファッション誌、小説に関するものですとか、スポーツ誌、そういったものが増えておまして、主に成人の方向けに、図書館の目につくところにそういったものを置いて利用を増やす、その起爆剤にしたいという思いがございまして、実施したところでございます。また、今後、いただいたようなご意見も勘案しながら、雑誌の構成を考えていきたいと思っております。

委員：6ページのところでご紹介いただきました、ご意見箱に入れられた意見のことなんですけれども、具体的にどういう意見が利用者から寄せられたのか、ご紹介いただければと思います。

事務局：手元に資料はありませんが、記憶にあるものとしたしましては、新聞のコーナーにずっといらっしゃる方が居られて、そこが独占されてしまうといったことですか、あるいはお子様から、漫画が欲しいというお声をお聞きします。あと、施設の面ですとかそういうところですか。

事務局：いただいたご意見の中で主なものは、まず、開館時間を延ばしてほしいというご要望がありました。それから、南部図書館、大変手狭でございますけれども、そういった中で手荷物を置くロッカーを設置してほしいというご要望、それから、2階の大会議室を学習室として開放しておりますけれども、その開放の日数を増やしてほしいというご希望等がございました。

委員：書庫の増設ということで、第二会議室に団体図書用の書庫を変更したという事ですが、そういう場所を広げていかないと、手狭になる一方で、私もこちらよりも県立の方が近いので県立を利用しているのですが、こちらを利用している友達がおりますので、今日、協議会があるのだけれど何かないか、聞いてきたのですが、お年寄りの方が上の方の本が取れなくて困っていたんだよということを聞きまして、どうしたのか聞きますと、取って欲しいと言いにいったらしいのですが、踏み台を持ってきただけだったので、なんだかかわいそうだったと言って、また、本を借りるだけではなくてまた返さなくてはいけない、そういう面ではなかなか低くするのは難しいと思っておりますが、そういうお年寄りへの配慮もできたらなというふうに思いました。

委員長：図書館へのお願い、いうことでいいでしょうか。

委員：障害者ライブラリーの事なのですが、立ち上げたときのメンバーとして、ずっと気になっていて、対面朗読の人数、2ページの(3)、121人となっていますが、これは延べですか、利用者の方は確か始めた頃は2人か3人ぐらいで、121人の方がいらっしゃるということではないですよ。これは、回数というか延べの数字ですよ。実際に利用されている方は、多分、少ないのではないですか。当初も問題になったのですけれども、ここに来る手段が難しく、来て、読んでもらいたいけれども、来られないという問題もあったと思うのですが、それは今どのように解決されているのか心配になります。この121人、242時間というのが、どういう数字なのか、ちょっと気になりました。

事務局：121人というのは延べ人数で、実際は、今対面朗読を受けられている方は3名です。それで、1コマと申しまして、2時間を1回というカウントで、対面朗読をする側の方も2時間でお疲れになってしまうので、例えば、今週ですと木曜日に来られる方は、朝10時から5時まで従事されますが、対面朗読をする方は3名、2時間ずつで交代する形で行います。それから、こちらに来られる手段のお話がありましたけれども、3名のうち2名の方はご家族がいつも連れて来られて、1名の方は、日によってはご家族が帰りの迎えに来られないので、私どもでこの近くのバス停までお送りをする形をとっています。それから、木曜日の方は、遠方の方ですけれども交通機関を利用してこちらまで来られます。その方は、冬期間は雪で、点字ブロックがどうしても凍りついてだめな場合があるので、冬期間は来られない日があります。今年は、幸いなことにそのような事は無いのですが。

委員：希望者の方はどうですか。

事務局：希望はその3名の方以外は今のところおられません。1名お電話をいただいたことがあったのですが、対象になる書籍が対面朗読には適さないご要望だったので、その方はお断りした経緯が過去ございます。それ以外の方のご希望は、今のところございませんで、現在3名の方に実施している状況でございます。

委員：図書館システムの更新をされたということなんですけれども、利用しようと思った方は、今、ホームページを最初にご覧になる方が多いと思いますので、とても素晴らしいことだなと思いました。その中で、「My 本棚」を付加する等いろいろな機能が向上したようだけれども、まだ開始したばかりかとは思いますが、利用者、利用率についてはどんな状況でしょうか。

事務局：ホームページの利用者については統計の数字が出るのですが、「My 本棚」を利用されている方の統計を取る予定はしておりませんでしたので、システム開発をした業者の方へ依頼をして統計が取れるように相談してみたいと思います。

委員：すごくいいなと思ったので、私も利用してみたいなと思ったので、統計とかそういうことでは無いのですけれども。

委員長：システムが新しくなったので、ホームページの利用の仕方といったようなことを、図書館の方でも周知してもらおうと良いのではないのでしょうか。「My 本棚」の使い方とか。おそらくホームページを利用される方は、検索をかけたり、予約をかけたりする利用が普通だと思うのですが、新しい機能が付いたのであれば、ぜひ、それをどうやって周知して、利用してもらうか、その良さを知ってもらうことが大切なんじゃないかなと思いますので、一度、それぞれの図書館で考えていただけるといいかなと思います。

委員：わくわくフェスタに行かせていただいて、親子での体験が充実していていいなと思ったので、私も参加して体験してきたものがあるのですが、この時に絵本の読み聞かせを、ご夫婦で絵本を作って持ってきてやっている方がいらっしやって、私のような古い人間の読み方と、今の人の読み方とはだいぶ違って、新しい感覚の流れで読むんですね。そういう事は、講座を受けたときに、マニュアルみたいなものがあるのでしょうか、それとも個人尊重主義で、それぞれの方の考えで読んでいるのでしょうか。講座の中にそういう企画みたいなものはあるのでしょうか。今の方はすごく独特で、あのような読み方をしないと子供たちが入ってきてくれないのかなと思ったんですね。だから、こういう講座の中に、そういうものがあるのかなと思ったので聞いてみたいのですが。

事務局：ボランティアの団体の皆様によっていろいろな考え方がございますので、その考えに基づいてお読みになっているかと思うのですが、図書館でやっている読み聞かせ講座では、絵本が主役であるということがまず基本となりますが、動物の声を出す時は、小さい動物は高く早口、大きい動物は太い声でゆっくりと、というようなことを教えていただいています。でも、あくまでも絵本が主役で、読み手が主役にはならないようにというようなことを教えていただいております。

委員：聞いていると水が流れるように話されるんですね。私が子供に聞かせる時とはまるで違うんです。ちょっと新しい世界だなと感じて、何かそういうものがあるのかなと思ってお聞きしてみました。

事務局：南部図書館で読み聞かせ講座を行う中では、講師の先生のお考えでやっていただ

いているところですが、基本的な講義のほかに実技を交えてやっていただいております。読み方については、すべての講義を私もお聞きしていませんが、必ずしも情感たっぷりに読むことが良いわけではない、という話は聞いたことがございます。

委員：私はこども文庫に携わってもう30年になるのですが、開設した頃は、子供が本当に大勢来てくれたのですが、子供の減少などに伴って来てくれる人が子供から大人にシフトしていますが、図書館の来館者数は、子供たちはどの程度来ているのかちょっとお聞きしたいと思います。

事務局：来館者数については自動でカウントをしておりますが、年齢別の人数を出すことがちょっとできないのですが、利用状況で、貸出の人数といたしましては30年度の数字で一般の方が125,660人、児童が18,881人です。南部図書館につきましては、一般129,116人、児童が20,545人ということで児童が少し多い状況でございます。

委員：関連したことなのですが、3ページに子供向けのイベントの参加者数が出ています。単純に南部と長野と比べると、1回の参加者数があまりに隔たりがあるというか、人数に違いがあるのですが、例えばクリスマスこども会は南部の方が200人ですね、長野の方は60人ですか。1回ごとの人数を見ても、人数の差があるのはどういう理由なのか、というのは、人形劇と、読み聞かせと子供のこのイベントに参加させていただいているグループの者なのですが、あまりの人数の違いにどういうわけなのかちょっと知りたかったです。

事務局：おそらく駐車場が手狭であることが理由の1つだというふうに思われます。

駐車場が入り切れないということで、前はもう少し多くいらしていたかと思うのですが、車を使う方が増えてきたという感じがしております。

それから、先ほど利用状況で、30年度の数字を申し上げましたが、昨年度、長野図書館は3か月半ほど休館をしておりましたので、29年度の利用状況ですと、一般が158,349人、児童が25,187人となっております。

事務局：今も話がありましたように、駐車場の問題が1番大きいのかなというふうに思います。南部図書館の場合は、通常は、支所、交流センターと図書館とで共用の駐車場になっておりますので、平日はそちらのお客さんと図書館の来館者と混在しているので、結構混んでいるのですが、イベントの日はご覧のように土日なので、支所は閉じているので駐車場は使いやすいのかなということが1つですね。それから、夜の夏休み子ども会は、篠ノ井合戦祭りの日に合わせてやっておりますので、お祭りに行く前に図書館に寄って、その後お祭りに行くという家族連れの方も大勢いらっしゃると思いますので、そういった日時の日

イメージ的な部分も南部図書館の方が有利なのかなというふうに考えます。

委員長：長野図書館の14時からという開始時間は、公共交通機関を使うとなると、恐らくぐるりん号になりますが、大門西か信大教育学部前で降りるのが、1番楽かと思うんですが、そういった交通の部分もちょっと配慮してみると、どうしても車中心になると、この駐車場だと土日は信濃教育会の駐車場をお借りしているという現実を見ると、非常に台数が限られるので、公共交通機関を使うということにも周知していただく必要があるのかなと思います。小さいお子さんがいると、どうしても自家用車で、ということが出てくるとは思います。打開策としては教育学部がお貸しできればいいのですけれども、土日は免許更新講習というのが入るので、なかなかあの駐車場をお貸しするのちょっと厳しい状況があるので、現実はどううまくいかないという点がございます。

私からもう少し補足の説明をいただきたいところが、長野図書館の来年度の計画の「その他」の中山間の小中学校対象の試行というところ、もう少し具体的に、図書館の団体貸出というのがどういう形で動こうとしているのか、補足していただけるとありがたいです。

事務局：長野図書館の方に記載してありますが、南部図書館も共通で実施する予定をしておりまして、来年度は試行として、まずは、中山間地、戸隠、鬼無里、豊野、大岡、信州新町、中条の小中学校について、学校司書の方が図書館まで来て本を選んで持ち帰る事が厳しい状況がございます。そこで、ファックスで図書館の方に借りたい本の申込みをしていただいて、市役所の文書を運ぶ連絡車がございまして、それを活用して、冊数は制約がございしますが、その連絡車で運べる範囲でお貸しするというようなやりとりをしてみたらどうか、来年度、試行していきたいというものでございます。

委員長：これ制限はないんですね、例えば借りる回数に制限があるというような事は。

事務局：連絡車で運べる範囲ということで冊数については制限を設けざるを得ない状況で、細部の運用につきましては、今、詰めているところでございます。

委員長：中山間地という事は恐らく小規模校になってくると思いますので、図書室の蔵書構成が整っていない学校が多いと思いますし、また、4月から新しい学習指導要領が動き出すと、調べ学習をすとか、学校図書館をうまく活用してくださいというような教育活動が増えてきたときに、例えば、この教科のこの単元を扱うときには、こんな本がリストできますよというのが、追々できてくると、例えば学校ごとに1月ずつ回していけば、その単元で調べ学習ができる、そういったようなボックスができると学校としてはありがたいのかなと思います。年間計画で、中山間地域の学校で時期をずらしていくことによって、調べ学習をどの学校でもできるようなシステムを作っていく。これは、実は新潟市が確か

もうすでにやっているんですね。市の図書館だったと思いますが、半透明の衣装ケースの中にパッケージされているんですよ。それを学校に団体貸出していくという、読書というより、学習に寄与する本の貸し出しと言う形でやっているものがあるので、その辺の情報も集めてみると、またいろいろな学校との連携の仕方、特に小規模校については資料の不足、予算面での制約が大きくなっていくので、どうやってそれを充実させて子供たちの教育活動に益するものにしていくのかというのは、今のようにファックスでオーダーをしていくというようなところと、ある程度リスト化、授業というところを見据えて、学校の司書や校長先生と話し合いをしながら、こんな本がパッキングされていると、子供たちの学習に役に立つという、やりとりができるようにしていただくと良いのかなと思います。お聞きしていて、これでやっとな動けるんだというふうに思っていて、大変楽しみにしております。

委員：学校図書館にとって大変ありがたいお話でしたので、付け加えさせていただきたいと思いますが、学校図書館との連携ということで、今年度行った内容の中に、学校司書の西部支会の先生方で、長野図書館視察研修が行われたので、そこで希望が出されたのかなというふうに思ったりもしたのですが、中山間地に図書館の貸出がファックスで行われて、しかも連絡車に載せていただけたら本当にありがたいことだなと思います。今、委員長さんがおっしゃった通り、学習指導要領により、調べ学習がより本格的に実施となりますので、とても大切になっていきますけれども、そうした時に、各校の実施時期が重なってしまうという課題もあると思うのですが、関係の本をボックス詰めしていただいて、それをそのまま期間を変えて貸していただけたら、非常にありがたいと思いますので、ぜひとも充実の方向で検討していただければと思います。

委員長：5ページの所の南部図書館の企画展ですかね、オリンピックイヤーということで、今年の2月ということなので今やっているのか、これからなのかが定かでは無いですが、関連グッズや書籍の展示、実は私ども教育学部は昨年、信州体育教育の流れという企画展を短い期間やったのですけれども、その時に、ちょうど昨年、「いだてん」で、金栗四三が長野にも来ていたということであるとか、東京オリンピックですけれども何人か、それからパラリンピックの方にも学部の方に寄贈していただいているんですね、小平であるとか一戸とか、あと、今、附属長野の特別支援学校の方におります、パラリンピックのスラロームで出た山崎君という卒業生がおりますけれども、そういったものも展示用に使えるので、オリンピックの企画でやりたいですということであれば、学部に一度お声掛けいただければ、小平や、大学の広報で小平が出ているのがいっぱいありますから、そういうものをパネルにする活用する方法もあると思いますので、ぜひ考えていただくと、料金は取りませんので、そういう意味でいろんな形でレガシーになるようなものというのは、身近に接してもらえるとありがたいのかなと思います。わざわざ企画をしなくても、オリンピックイ

ヤーなので、長野出身、あるいは長野に縁のあるオリンピック選手達というので少しミニ展示のようなことをしていただくだけでも、やはり小平だけではないんだなと、今回も500で金を取りましたけれども、やっていただけると、我々の学部にも益するところがちょっとあるかなと思いますので、声掛けいただければ活用できるかなと思いました。

ウ その他

委員長：「その他」でございます。本協議会は年2回の開催ということでございますので、この機会に、いくつか事業に関わってのご意見をいただいておりますけれども、図書館に関するご意見、ご要望を承っておきたいと思いますが、是非、これだけは言っておかないと帰れないというものがあれば、お出しいただきたいと思いますが、お願いいたします。

委員長：私から1つ、お願いということになるかと思うのですが、実は教育学部は今年の8月のお盆明けから、附属図書館の改修に入ることになっております。年度末までの期間で、学部の図書館が利用できなくなるということで、また学部の方から打診があると思うのですが、学部生の利用が恐らく増えるのではないかと考えています。そういう意味で、これまで以上に学部の大学生の利用が増える、特に卒業研究が12月、1月という時期は高校生の自習でも混んでいる時期かと思うのですが、さらに大学生も利用増になる見込みで、特に長野図書館の方には貸出も含めてお願いをすることになるかと思うので、ぜひよろしくお願いいたします。

委員：図書に関してというより、私は施設に関してですが、前回もお願いしたと思うのですが、お弁当を食べる場所、休憩できる場所をもう少し暖かくしていただけるといいなと。今、3階のスペースで、学生さんがパンと牛乳や飲み物を持ってきて、あまりにも椅子とかテーブルとかが雑、どうでもいいようなものが置いてあるような、もう少し良い雰囲気になるようにしていただけると、もっと居心地が良くなるんじゃないかなといつも思うのですが、予算的に大変だと思うのですが、南部と比べてはいけないのですが、そうでなくてもここはちょっとクールな雰囲気があるので、高齢者には良いのかもしれないけれども、若い家族、お母さん、子供たちにももう少し優しい図書館になれたらいいなというふうにも思っておりますので、よろしくお願いいたします。

事務局：ご意見をいただいて、ちょっとテーブルを増やしたりしておりますけれども、椅子についても、張り替えを行っているところですので、少しずつやっておりますのでよろしく申し上げます。

委員長：ほか、いかがでしょうか。特にないと言うことでよろしいでしょうか。
いくつかご意見を頂戴しました。事務局においては、取り上げられるもの、改善すべきものは対応していただければというふうに思います。
予定しておりました協議事項は以上で終了となりますので、進行を事務局の方にお返ししたいと思います。

教育次長：長い時間にわたり、熱心にご協議をいただきましてありがとうございました。
いただきましたご意見につきましては、来年度から、生かせるものは生かしてまいりたいと考えております。また、こういった会議の場でなくとも、意見等がありましたら、図書館へお寄せいただければと考えておりますので、よろしくご意見申し上げます。ありがとうございました。